

反動の嵐に抗して！

2012年
5月28日
No.19

JR 東海労働組合
台検車両所分会
発行者 西村泰弘
編集 教宣部

原子力発電所の再稼働絶対反対！！

子供たちの未来のために

すべての原子炉の廃炉を目指そう！！

「核燃再処理」 有利に修正

5月24日付けの毎日新聞記事によると、内閣原子力委員会が「使用済み核燃料」の再処理政策を論議してきた原子力委小委員会の報告案を作成するために、4月24日に非公開で勉強会と称する会議が開かれたそうです。

核燃料サイクルを巡る報告案(総合評価)の書き換え(抜粋)

4月24日の勉強会(原案) → 5月8日の小委員会(報告案)

再処理・直接処分併存	使用済み燃料管理・貯蔵、放射性廃棄物発生量(処分面積)、資源節約の面で優位。これに加え、選択肢の確保(柔軟性)で優位	再処理・直接処分併存
	■使用済み燃料管理・貯蔵、処分面積、資源節約の面で全量再処理より多少劣る	△
	■政策変更に伴う課題は全量直接処分より少ない	○
	■全量再処理より経済的に多少有利	○
	■将来の原子力発電規模が不透明な場合への対応に優れる	○
	■経済的には、現在のウラン価格が持続する前提や現状の技術的知見の下では、全量再処理、再処理・直接処分併存に比べ優位となる可能性が高い	△
	■政策変更に伴う課題が多く、使用済み燃料が行き場を失い、必要な原子力発電規模を維持できない可能性がある。代替電源でカバーする場合、大きな費用が発生する	×
	■使用済み燃料管理・貯蔵、処分面積、資源節約の面では最も不利	×
	■政策の柔軟性は限定される	×

※全量再処理の項目は省略。評価の変化は毎日新聞が判定。
○=プラス、△=ややマイナス、×=マイナス

その勉強会には原子力委小委員会の報告案の原案が配られ、再処理に有利になるように求める事業者側の意向に沿って、結論部分にあたる「総合評価」が書き換えられそうです。

なぜ?! 原子力委員会は再処理にこだわるのか?

なぜ、原子力委員会は全量直接処分ではなく、高コストだと分かっている再処理に報告案を書き換えてまで、こだわるのでしょうか?

全量直接処分というのは、原発を稼働させて出来た「使用済み核燃料」を地中深く埋める

ことです。再処理が出来なくなれば「使用済み核燃料」を埋める場所を速やかに決めなくてはなりません。埋める場所が困ることになれば、“原子力発電所停止”の世論が高まります。

核兵器にはプルトニウムが必要不可欠

使用済み核燃料の再処理が出来なくなれば、ウランやプルトニウムを取り出すことが出来なくなります。ウランやプルトニウムは核兵器に不可欠なものであり、核兵器の原料は外国に高く売れることも出来るのです。ですから、原子力委小委員会や原子力発電所を推進したい企業は再処理にしがみつく構図が見えてきます。

また、5月19日付けの朝日新聞の記事には、東電が発表した値上げ申請の中には核燃料 110 億円とは別に「使用済み核燃料」の後始末費用 668 億円（積立金 1 兆 1 2 6 0 億円）が含まれていることがわかりました。つまり、東電としては何が何でも、再処理事業を行いたいのです。

しかし、現実には青森六ヶ所村に建設予定の再処理工場は装置の不具合で 2008 年末に試運転が停止したままです。停止したままの再処理工場の費用を値上げ分として申請しているのです。

東電は原子力発電所の再稼働と、福島に代わる新たな原子力発電所の建設を狙っているといえます。こんなことが許されて良いのでしょうか？

■電力各社の使用済み核燃料の処理への備え

	再処理積立金	日本原燃との関係		原燃の関 係は2011 年3月期 。本
		出資	債務保証	
東京電力	1兆1260億円	1716億円	2810億円	積立金は各社の2012年3月期 決算から。日本原子力発電と、日本
関西電力	6118億円	999億円	1840億円	
中部電力	2292億円	603億円	1259億円	
九州電力	2203億円	530億円	954億円	
四国電力	1219億円	257億円	524億円	
東北電力	996億円	347億円	765億円	
中国電力	721億円	318億円	682億円	
北海道電力	703億円	220億円	470億円	
北陸電力	210億円	177億円	412億円	
日本原子力発電	841億円	303億円	510億円	

ところで、使用済み核燃料を地中深く埋めた(全量直接処分)としても、必ずしも安全だとは言えません。なぜなら、日本は至るところに活断層があり、何時どこで大地震が起こるかわかりません。その結果、埋めた使用済み核燃料から放射能が漏れ出す可能性があります。

だからといって、このまま原発を再び稼働し、「使用済み核燃料」を再処理すれば捨てるに捨てられない放射性物質が増え続けます。さらに核兵器の材料（高濃度のウランやプルトニウム）を作ること、人類の最悪の事態をひき起こしかねません。

人類の手に負えない原子力

福島第一原子力発電所は収束のめどすら立っていません。原子力は人類の手に終えないものであることははっきりしています。この夏電力が足りないと盛んに宣伝されています。しかし、列車を間引くとか企業の操業を見直すといった声はあまり聞こえてきません。それどころか電力料金の値上げ、家庭電力の節電など働くものばかりにしわ寄せが来ているのではないのでしょうか。このことは、何とかもう一度原子力発電所を稼働させてお金もうけを企む輩の意志ではないのでしょうか？

今すぐすべての原子炉を廃炉にし、国のエネルギー政策を原子力発電所に頼らないものに作り変えることこそ、私たちに課せられた急務な課題ではないのでしょうか？

**将来を担う子どもたちの未来を守るために
今出来ることがあるのではないのでしょうか？！**